

## 「電子私書箱(仮称)構想の実現に向けた基盤整備に関する検討会」について

### 2008年度の検討範囲

特定の情報（特定健診結果、年金記録）の閲覧・活用をユースケースとした電子私書箱インタフェース（仮称）等に関する基盤整備に関する検討を行う。

- ① 技術的要件に関する検討
- ② 制度的課題に関する検討
- ③ 社会保障情報以外の分野における電子私書箱（仮称）利用に関する検討
- ④ その他電子私書箱（仮称）構想の実現に向けた検討

### 検討会構成員（50音順 敬称略）

池上 秀樹	健康保険組合連合会理事
大山 永昭	東京工業大学大学院理工学研究科教授
神谷 寿彦	ヤフー株式会社社会員サービス事業部長
小松 文子	独立行政法人情報処理推進機構 情報セキュリティ分析ラボラトリー室長
新保 史生	筑波大学大学院 図書館情報メディア研究科准教授
須藤 修	東京大学大学院情報学環教授
寺本 振透	東京大学大学院法学政治学研究科教授
安田 浩 (座長)	東京電機大学未来科学部 情報メディア学科教授
山本 隆一	東京大学大学院情報学環准教授

※ オブザーバー：関係府省

# 社会保障サービス等の現状 サービス提供者の視点

社会保障サービス等はサービス提供者側の視点になっており、個人にとってまだまだ使いづらい。

## 入手の問題

①様々な本人確認手段を使って個別にアクセスしなければならない。



### 医療保険者等

- ・政管健保
- ・健保組合
- ・広域連合



### 年金保険者

- ・厚生年金等



### 国・地方自治体

- ・電子行政



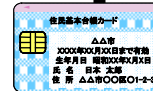
### 医療機関



保険証



年金手帳



住基カード



診察券

## 閲覧の問題

③最新の情報が何なのかすぐにわからない。自らチェックすることができない。

個人

## 活用の問題

④情報を紙でもらっても、保管が大変。紙だと情報の活用が難しい。

次はどことどこへいくんだっけ？

定年退職

転職

年金受給

引っ越し

# 電子私書箱の概念と機能 利用者視点への転換

## ◆電子私書箱(仮称)構想の目標

様々なサービス提供者(国、地方自治体、保険者、医療機関等)が保有する国民の情報を、安心かつ容易に入手・閲覧し、本人が入手・閲覧・管理・活用できる仕組みを実現。



利用者の視点に立ち返り、これらのサービスについて新たな情報の入手・活用スキームを提示。

## 電子私書箱の主要な機能

### ●情報の入手・閲覧

- 様々なサービス提供者で分散している個人の情報を、本人の意向に基づき集約し、自分の情報を入手・閲覧できる仕組み。
- 前頁①、③の問題を解決。

### ●情報の管理・活用

- 収集・蓄積した個人の情報を他のサービスに活用する仕組み。
- 前頁②、④の課題を解決。

